



McAfee Change Control

リアルタイムでのシステム変更を検知・制御

製品概要

現在、IT組織の大半は、運用効率に関わるシステム変更の重要性を認識し、変更管理システムやサービスデスクのようなプロセス自動化ツールに費用を投じています。しかし、実際の変更活動と文書化されている変更管理プロセスとの間には差異が生じています。IT部門は、変更管理におけるこの差異が原因で、手作業で変更をコントロールし、さらに、コストを最小限に抑えなければなりません。

McAfee Change Controlは、この差異を解消するため、変更管理にコントロール機能を追加します。具体的には、実施されている変更をリアルタイムで検出し、変更活動の正当性を実証する説明責任を明確にし、リアルタイムの防止機能によって望ましくない変更をブロックします。McAfee Change Controlの使用により、PCIおよびSOX管理の自動化とコンプライアンスレポートの作成ができます。また、重要なシステムをロックダウンして信頼できるアプリケーションだけを実行させることや、変更に関係したシステムの停止を防止してサービスの可用性向上やITILの導入を加速させることも簡単です。

McAfee Change Controlは、使いやすく、操作性が高く、低いオーバーヘッドで幅広いハードウェアプラットフォームに導入できるソフトウェアです。サーバー、ネットワークデバイス（スイッチ、ルーター、ファイアウォールを含む）、およびデータベースへの変更をコントロールする機能を提供します。



リアルタイムでの変更コントロール

McAfee Change Controlは、システム状態のスナップショットを取って比較するスキャンベースのソリューションとは異なり、試行されているすべての変更をリアルタイムで追跡して正当性を検証します。このアプローチは、複数の重要なメリットをもたらします。

- インフラストラクチャ内のすべての変更が、発生と同時に独立した変更データベースに記録されます。
- 試行されたすべての変更は、適用される前に、リアルタイムで正当性が検証されます。
- エンドポイントではオーバーヘッドがほとんど発生しないので、リソース使用率の上昇による運用への影響はありません。

サーバー、ネットワークデバイス、データベース全体のすべての変更がリアルタイムで記録されるため、管理者は例外の変更に対する即時アラートを構成しておき、McAfee Change Controlのダッシュボードや外部の管理アプリケーションに警告をフィードすることができます。またMcAfee Change Controlは、包括的な変更データベースを作成して常に最新の状態に維持します。インテリジェント・フィルタリングによって、データベースに記録されるのは重要な変更のみに制限されるため、ネットワーク帯域幅の消費を最小限に抑えることができます。この変更データベースは、強力な検索機能の基盤となって、変更関連のあらゆるインシデントの原因をすばやく、かつ正確に特定するために必要な、豊富なフォレンジック情報を提供します。この機能は、問題のシステムがオフラインの場合にもフルに活用することができます。

すべての変更は、発生と同時に関連する重要情報とともに記録されるため、変更チケットと正確に照合することができます。

McAfee Change Controlと連携して動作するMcAfee Change Reconciliationは、サーバーに実施された変更と、既存のチケットシステムに文書化されている変更チケットを関連付けます。McAfee Change Reconciliationは、HP Service ManagerやBMC Remedyなどの主要な変更管理システムと統合できます。また、BMC Atrium、HP Universal CMDBなどの主要な構成管理データベース(CMDB)とも統合します。

McAfee Integrity Monitorは、企業とサービスプロバイダーが、PCI DSSカテゴリ10に規定されているデータベースとネットワークデバイスの監査証跡の要件と、PCI DSSカテゴリ11に規定されている継続的なファイル整合性モニタリングの要件に、即座に、簡単に、コスト効率よく対応できるように支援する製品です。一方、McAfee PCI Proは、ファイルに対するすべての変更を記録し、管理者がポリシー違反の発生場所をすばやく特定できるようにします。このソリューションは、ファイルが不適切に変更され、また元に戻されるような一時的な違反を特定して警告するほか、変更の正確な時間など、すべての変更の具体的な詳細情報を記録します。McAfee Integrity Monitorを使用する場合は、PCI DSSセクション1に従ってネットワークデバイスの構成基準を確立し、デバイスのコンプライアンス状況をリアルタイムでモニタリングすることもできます。すべての構成変更が追跡され、バージョンが管理されるので、PCI DSSセクション10の監査証跡の要件を満たすことができます。ポリシーを設定して、未承認の構成変更が検出された際に「信頼されるデバイス構成」にロールバックすることも可能です。この製品には、最小限の労力で監査担当者にコンプライアンスを実証できるPCIレポートが用意されているため、PCIコンプライアンスの実証にかかるコストを削減できます。

さらに、試行される変更をリアルタイムで検出し、正当性を検証する機能により、IT組織は変更ポリシーを施行することができます。変更の実施前にポリシーに従っていない変更の試みを拒否できるので、変更に関連するシステムの停止とコンプライアンス違反を大幅に削減できます。

エンタープライズソリューション

PCI DSSコンプライアンスの達成と維持

小売業者とサービスプロバイダーがPCI DSS(クレジットカード業界セキュリティ基準)コンプライアンスを達成するには12のカテゴリにわたるおよそ180の要件を満たす必要があります。しかし、PCI DSS要件の中でも、ファイル整合性モニタリングと監査証跡の使用を規定しているカテゴリ10および11への対応が最も難しいことが判明しており、最近の調査でも、最も満たされていない要件であるという結果が出ています。この要件への対応が困難なのは、既存のツールには、リソースを消費するシステムスキャンを通じて変更を検出する「定期的な」ファイル整合性モニタリング機能しか装備されていないためです。ITインフラストラクチャに対する絶対的なコントロールを提供するMcAfee Change Controlにより、小売業者やクレジットカード取引を処理する企業は、効果的かつコスト効率よく、難しいPCI要件を満たし、PCIコンプライアンスを実証できるようになります。

マカフィーは、あらゆる規模の小売業者がPCI DSSのセクション1、10、および11に規定されているファイル整合性モニタリングと監査証跡の要件を簡単にコスト効率よく満たすことができるように、PCI Proソフトウェアを提供します。世界の主要な認定監査機関(QSA)は、包括的なPCIコンプライアンス戦略に欠かせない要素として、これらのソリューションを認定し、推奨しています。

セルフサービスのSOX法監査

2002年に米国議会を通過したSOX(サーベインスオクスリー)法は、企業ガバナンス基準に抜本的な変化をもたらしました。企業がビジネスにおけるSOX法の意味合いを理解するにつれ、SOX法コンプライアンスプログラムが一時的なプロジェクトではなく、財務報告書の正確性に影響するビジネスプロセスに対する可視性と説明責任を明確化するための継続的な取り組みであるということが明らかになりました。SOX法コンプライアンスに必要なIT管理作業の大半は、手作業で、エラーが発生しやすく、多くのリソースを必要とします。

McAfee Change Controlは、セルフサービス型の自動IT管理フレームワークの構築を通じて、多数のお客様のSOX法コンプライアンスの課題解決を支援しています。このフレームワークでは、単一のレポートシステムのボタンのクリック1つでコンプライアンス状況の検証に必要な情報を取得できます。マカフィーのリアルタイム変更検出機能と自動化された非常に正確な変更調整機能によって、承認内容に対して変更を自動的に検証できます。プロセスに従っていない変更(緊急の修正など)は自動的に記録、調整されるので、監査が容易になります。SOX法監査のためにMcAfee Change Controlを使用しているお客様は、リスクの低減とコストの削減の2つ面で大きなメリットを享受しています。多くの場合、最初に得られるメリットは、従来の手作業だったコントロールの自動化です。2つ目のメリットは、環境ファブリック内にコントロール機能が組み込まれたことが監査担当者を実証され、コントロールセットが合理化、削減されることです。

サービス可用性の改善

可用性低下の原因のほとんどは変更操作です。現在IT組織は、IT運用効率にとっての変更の重要性を認識しています。統計で周知の通りですが、計画外のダウンタイムの80%は、未承認または未検証の変更によって発生しています。また、可用性回復に要した時間の80%は、何が変更されたかを検出するために費やされています。このようなことが把握されているにもかかわらず、実際の変更活動と変更管理プロセスとの間には、今なお差異が生じています。IT部門は、変更管理におけるこの差異が原因で、手作業で変更をコントロールし、変更のコストと変更に関係するシステム停止を最小限に抑えなければなりません。McAfee Change Controlは変更をリアルタイムで追跡し、変更に関する最新情報を提供します。この製品を使用することにより、IT組織はこの変更コントロールの差異を解消し、サービスの可用性を高めることができます。マカフィーが記録する豊富な変更情報には、強力で柔軟な検索/レポートのインターフェイスからアクセスできるので、分析能力が飛躍的に高まり、診断時間も大幅に短縮できます。McAfee Change Controlを使用すると、変更ポリシーを選択的に施行し、不明な変更によって問題が発生する前にこのような変更を防止できます。サービスの可用性を維持するためにMcAfee Change Controlを使用しているお客様は、可用性低下を引き起こすインシデント(平均故障間隔によって測定)の数、およびインシデント当たりの回復時間(平均復旧時間によって測定)の飛躍的な改善を実現しています。環境によって違いはありますが、結果として大幅なコスト削減が達成されています。

ITIL導入を加速

多くの中堅および大規模な組織が運用効率を改善する手法を検証している中、IT運用のベストプラクティスを定義する事実上の業界標準としてITILが急速に普及しています。ITILへの投資の迅速な回収を妨げている大きな技術的要因は、インフラストラクチャ内の変更をコントロールする機能の欠如です。変更がコントロールされている環境でなければ、自動化および効率化ツールは変化するインフラストラクチャ上で稼働しているのも同然であるため、これらのツールへの投資から期待ほどの利益は生まれません。特にITILプロジェクトは、大規模で複数の段階を踏んで実施していくので、ビジネスにとってのROIの実証が、このプロジェクトの成功を妨げる大きな文化的要因となっています。

お客様は、McAfee Change Controlを使用することで、ビジネスにとってのROIを実証するペースを大幅に加速することができます。コントロールされた環境を維持し、自動化を実現するため、使用するお客様は、変更に関する情報をリアルタイムで取得し、自動的に正確な承認内容に対して変更を調整し、選択的に変更ポリシーを施行できます。そしてこれらすべての成果を、ビジネスに対する重要なROIに転換することができるのです。

仕様

サポートされるプラットフォーム

Microsoft Windows (32, 64 ビット)

- Embedded: XPE, 7E, WEPOS, Pos Ready 2009, WES 2009
- Server: NT, 2000, 2003, 2003 R2, 2008, 2008 R2, 2012, 2012R2
- Desktop: XP, Vista, 7, 8, 8.1

Linux

- RHEL 5, 6
- Suse 10, 11
- CentOS 5, 6
- OEL 5,6
- SLED 11
- OpenSUSE 10/11

マカフィーについて

マカフィーは、インテルコーポレーション (NASDAQ:INTC) の完全子会社であり、企業、官公庁・自治体、個人ユーザーが安全にインターネットの恩恵を享受できるよう、世界中のシステム、ネットワーク、モバイルデバイスを守るプロアクティブで定評あるセキュリティソリューションやサービスを提供しています。マカフィーは、Security Connected戦略、セキュリティにハードウェアを活用した革新的なアプローチ、また独自のGlobal Threat Intelligenceにより、常に全力でお客様の安全を守ります。詳しくは、<http://www.mcafee.com/jp/>をご覧ください。マカフィーでは、セキュリティに関する様々な研究成果や調査結果をweb上で公開しています。詳しくは下記ページをご覧ください。

<http://www.mcafee.com/japan/security/publication.asp>



●製品、サービスに関するお問い合わせは下記へ

- 東京本社 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-12-1 渋谷マークシティウエスト20F
TEL:03-5428-1100(代) FAX:03-5428-1480
- 西日本支店 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-2-2 近鉄堂島ビル18F
TEL:06-6344-1511(代) FAX:06-6344-1517
- 名古屋営業所 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-20-17 中外東京海上ビルディング3F
TEL:052-954-9551(代) FAX:052-954-9552
- 福岡営業所 〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲5-3-8 アクア博多5F
TEL:092-287-9674(代)

McAfee、マカフィーは、米国法人McAfee, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。

●本書中のその他の登録商標及び商標はそれぞれその所有者に帰属します。©2014 McAfee, Inc. All Rights Reserved.

●製品、サービス、サポート内容の詳細は、最寄りの代理店または弊社事業部までお問合せください。●製品の仕様、機能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。MCABRF-SCCC-1405c-MC